

枝 風、光、自然を肌で感じる空間づくり

～保育園の園舎を新築～

●のびのびとした空間で豊かな感性を育む

といでせいぶ保育園(社会福祉法人・市野瀬福祉会)は、平成十九年四月に高岡市から民間へと運営が移った第一号の保育園。民営化をきっかけに建て替えられ、昨年十二月に新しい園舎が誕生した。

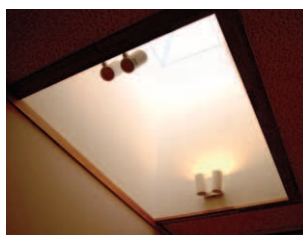


▲曲線と直線を融合させたモダンな園舎。

設計にあたり、同保育園が建築家に希望したのは「風が通り抜け、光が降り注ぎ、自然を肌で感じられる建物」。保育園は子どもたちの健全な成長を見守り、夢を育む場。完成した園舎は、平屋のゆったりとした間取りで、あちこちに直径二メートル以上の円窓やトップライト(天窗)、ライトコート、などが設けられている。

光を採り入れ、子どもたちの五感を刺激するための工夫が凝らされている。

正面玄関は、円窓のあるオレンジ色の引き戸がみんなを迎える。トツ



▲園内に7ヶ所設置されているトップライト。



▲広葉樹を植えた冬の光庭。



▲大きな円窓越しに厨房内を。

なるのか、子どもたちが学べるようになっていきます。小さいうちから食べ物や調理する人への感謝の気持ちを育んでほしいですね」と森井二代園長。ステージのある大きな遊戯室には、「えほんのへや」とロフト(中二階)が

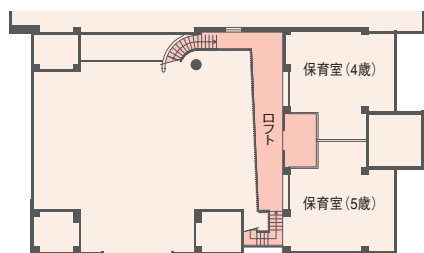
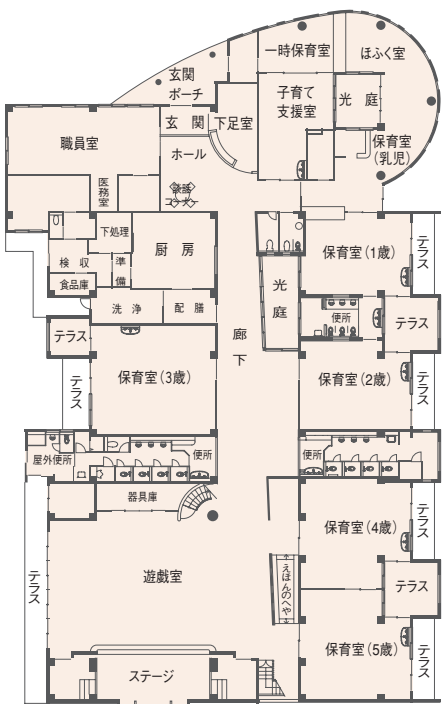
ブライトから陽光が降り注ぐホールは、曲線を生かした収納棚や下足箱が配置され、園児のコートやシューズが整理整頓されている。

保育室は、ひよこ(〇歳〜一歳児)、うさぎ(二歳児)、ぱんだ(三歳児)、きりん(四歳児)、ぞう(五歳児)の五つ。年齢に合わせて、各室の収納棚やカウンターなどの高さが調整してあり、たとえば、〇歳児なら背の低いカウンターにつまり立ちしながら、窓から青空や樹木を眺められるように工夫されている。

各室に隣接するトイレも可愛らしい。子どもたちの身長、体格に合わせた小さな便器が並び、カラフルな手すりや飾り棚、間接照明が設置されている。保育士の目が届くようにオープンスペースが基本だが、年設けられている。”子どもたちがワクワク、ドキドキする空間を”と「えほんのへや」は、床を一段下げ、壁で仕切った”洞穴”のようなスペース。また、ロフトは秘密の基地といった趣き。格子と樹脂ガラス越しに遊戯室全体が見渡せる設計が秀逸といえる。



▲洞穴にいるような感覚が楽しめる「えほんのへや」。



木の温もりいっぱいのロフト。▶

遊戯室では、▼子どもたちがコマ回しで遊ぶ。



▲明るく開放的なトイレ。



▲保育室には、子どもたちの元気と笑顔が溢れている。

●ワクワク、ドキドキする空間づくり

中央廊下は奥に進むほど幅が広くなっており、子どもたちの遊びの場としても使える。「光庭」と名付けられたライトコートもあり、広葉樹

が植栽されている。新緑、紅葉、落葉と四季折々に姿を変える樹木や空、光を楽しむことができる。自然の移ろいや美しいものを美しく感じる心を育ててほしい、という願いから設けられたこだわりの空間だ。

今回のオーナー訪問



社会福祉法人・市野瀬福祉会
といでせいぶ保育園園長 森井一代さん

「壁に穴を開けて、小さな窓を作つて」、「クローゼットの高さを調整して」と建設中にもかかわらず、あれこれと注文し、設計士さん、工事屋さん泣かせの建設工事だったと思います。急な変更希望にも、皆さんが凶面を見ながら思案し、適切に対処してくださいました。そのおかげで、風と光、自然を肌で感じられる素敵な園舎が完成しました。保育室や遊戯室で元気に過ごす子どもたちの笑顔が、建物の素晴らしさや使い心地をなによりも証明していると思います。職員二人二人の意見を組み入れて、設計・施工に携わってくださった皆さん、ありがとうございました。